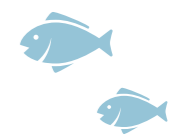
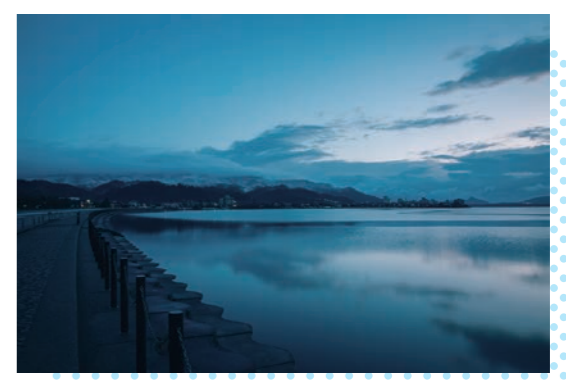




統計データで見る



与謝野町のすがた



京都府政策企画部企画統計課 075-414-4494
与謝野町総務課行政係 0772-43-9010

京都府企画統計課
与謝野町

統計で分かる地域の魅力

皆さんは、統計にどのような印象をお持ちですか？
「難しい」「複雑」と思われている方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、統計データは、地域の魅力や今のすがたを「見える化」してくれる、とても役に立つものです。

京都府と与謝野町は、統計データを活用した町の分析プロジェクトに取り組んできました。

このパンフレットでは、普段統計に触れる機会がない方にも親しみやすいテーマを用いて、統計データを通して見えてきた与謝野町のすがたと、データが表す「数値の基」となった背景や実際の取り組みの一端をご紹介します。

パンフレットを通じて、少しでも統計の面白さや町の魅力を感じていただけると幸いです。

京都府×与謝野町地域分析プロジェクトチーム

パンフレットで活用した主な統計データ

経済センサス

総務省及び経済産業省が実施している、全事業所及び企業を対象とする統計調査です。『経済センサス - 基礎調査』『経済センサス - 活動調査』の2つの調査から成り立っており、それぞれ5年に1回実施されています。地域防災計画の策定や、地域活性化政策の立案などに幅広く活用されています。

農林業センサス

農林水産省が実施している、日本で農林業を営んでいるすべての農家、林家や法人を対象とした統計調査です。5年に1回実施されており、次回は2020年に実施予定です。地域の農林業の実態を明らかにすることを目的としており、農業振興政策の立案などに活用されています。

与謝野町って どんなまち？

与謝野町は、京都府北部に位置し、南は福知山市、東は宮津市、西は京丹後市などに接しており、総面積108平方キロメートルの範囲に約2万人が暮らし、南北約20キロメートルの間に町並みや集落が連なります。

大江山連峰をはじめとする山並みに抱かれ、野田川流域には肥沃な平野が広がり、天橋立を望む阿蘇海へと続く豊かな自然に囲まれたまちです。

古くから手仕事とともに文化を織りなしてきた与謝野町は、「ものづくりの町」として丹後ちりめんを代表とした織物業とともに発展してきました。

また、町内に広がる広大な農地では、独自の有機質肥料を使った環境にやさしい自然循環農業を推進しています。



PICK UP!

与謝野の見どころ

加悦SL広場

かつて、旧加悦鉄道を走った車両が保存されています。

国指定重要文化財である「123号蒸気機関車」をはじめ、27種類もの車両を見ることができ、映画ロケ地にもなりました。



ちりめん街道

ちりめん商家等を中心として、かつて栄えた約120棟の建造物が残されており、今もその歴史を伝えています。

平成17年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されました。



丹後ばらすし

味付けされたサバのそぼろをちらして作る丹後地方の郷土料理です。ハレの日などに振る舞われ、与謝野町内でもとても愛されています。平成30年に日本遺産構成文化財に認定されました。



織物の町

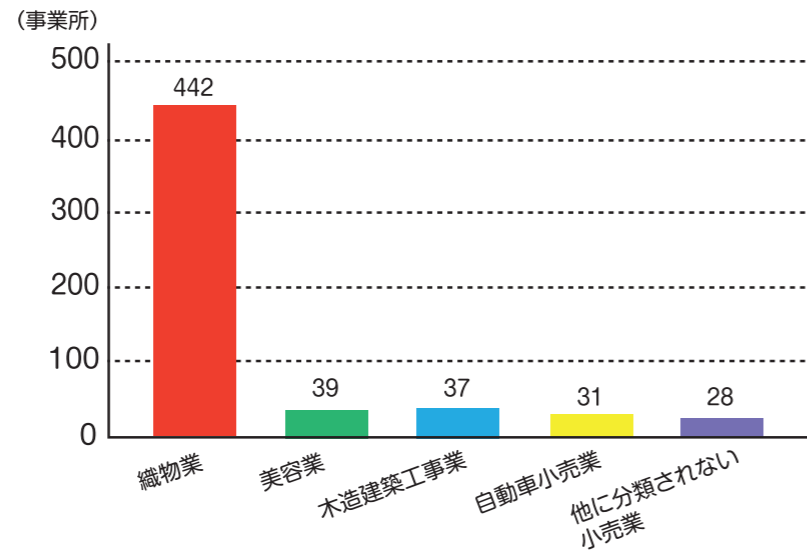
与謝野町といえば、丹後ちりめんの産地として織物業が活発であることが全国的に知られています。

右グラフは、平成28年経済センサス - 活動調査の結果に基づいて、産業小分類別に分類した町内事業所を多いものから順に並べたものですが、織物業を営む事業所が圧倒的に多いことが分かります。

1,551ある町内の事業所のうち、442事業所を織物業が占めており、町内で2番目に多い美容業の事業所の10倍以上もの事業所が立地しています。

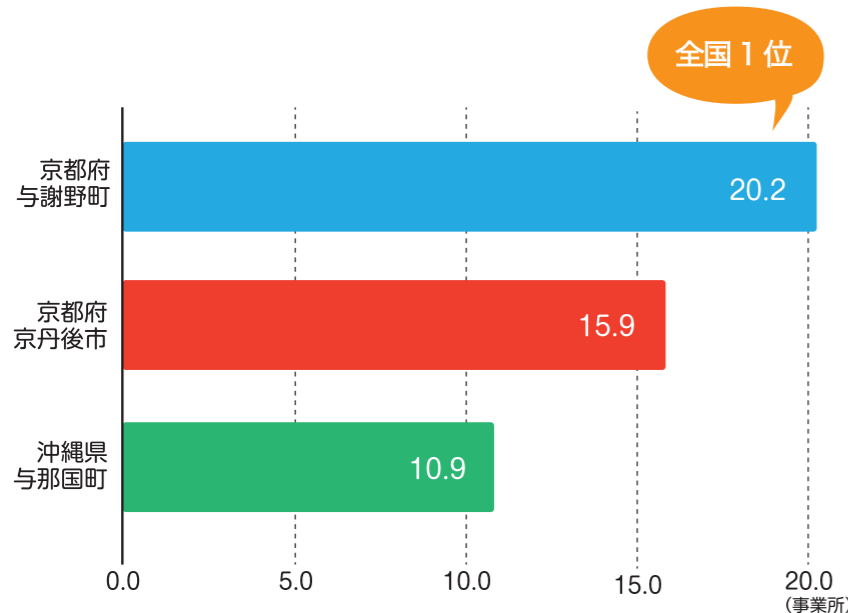
与謝野町内 産業小分類別事業所数 TOP5

総数:1551 事業所



(出典)総務省統計局・経済産業省「平成28年経済センサス - 活動調査」

人口1千人当たりの織物業事業所数 全国TOP3



(出典)総務省統計局・経済産業省「平成28年経済センサス - 活動調査」
総務省統計局「平成27年国勢調査」

では、全国的にはどのような位置にいるのでしょうか。

人口1千人当たりの事業所数では、なんと与謝野町が全国で1位になっています。

また、全国2位は京丹後市であることから、丹後地域全体で織物業が活発であることが分かります。

なぜ丹後地域では、これほどまでに織物業が栄えたのでしょうか。

次のページでは、その歴史を紐解いていきます。

織物の歴史



雨が多く、湿度の高い丹後地域の気候は、絹織物の生産に適しており、中世には「丹後精好」と呼ばれる絹織物が生産されていました。

江戸時代の享保7年には、山本屋佐兵衛（やまもとやさへえ）と手米屋小右衛門（てごめやこえもん）が京都西陣から持ち帰った技術をもとに、「ちりめん」の製織技術の普及に尽力しました。こうして誕生した「丹後ちりめん」を主力とした織物業は、今日まで地域経済を牽引してきました。生産量や織物事業者はピーク時より減少しているものの、2017年には日本遺産登録、2020年には創業300年を迎えるなど産地活性化の明るい兆しが見えています。

与謝野町では、このような歴史ある織物業を受け継ぐ担い手の育成にも力を入れて取り組んでいます。

丹後ちりめんとは



最大の特徴は、強くねじった緯糸（よこいと）を使うことにあります。

ねじった緯糸を精練（生糸に含まれる成分や汚れを洗い流す作業）することで、糸が収縮し、緯糸のねじりが戻り、生地全面に「シボ」とよばれる細かい凸凹ができます。

このシボがあることにより、しなやかでシワになりにくい生地になります。

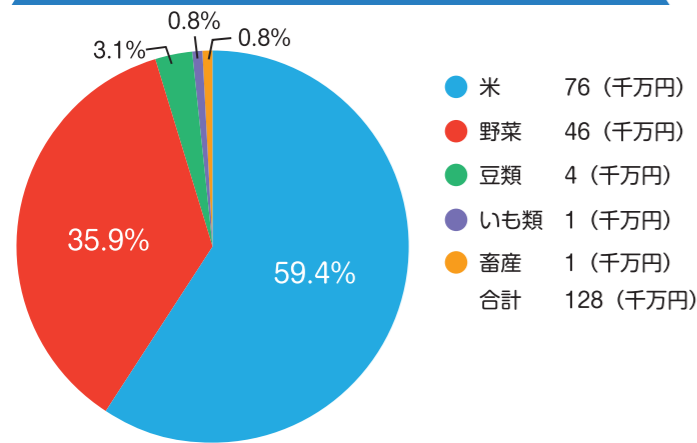
また、凸凹の乱反射によって、色合い豊かで深みのある色を醸し出すことができます。

近年では、丹後ちりめんて培われた技法を活かした風呂敷やスカーフなどの小物も作られ、人気を博しています。

農業の充実



品目別農業産出額（推計）



（出典）農林水産省「平成28年市町村別農業産出額（推計）」

与謝野町の農業産出額(推計)を品目別に見ると、米の産出額が7億6千万円となっており、なんと全体の59.4%を占めています。

また、全国や京都府平均と比較しても、品目全体に占める米の産出額割合が非常に高いことがわかります。加悦谷平野から北に向かって広がる肥沃な土壌や大江山から流れる野田川の綺麗な水といった、米作りに適した環境が、活発な米作りに影響を与えたのではないのでしょうか。

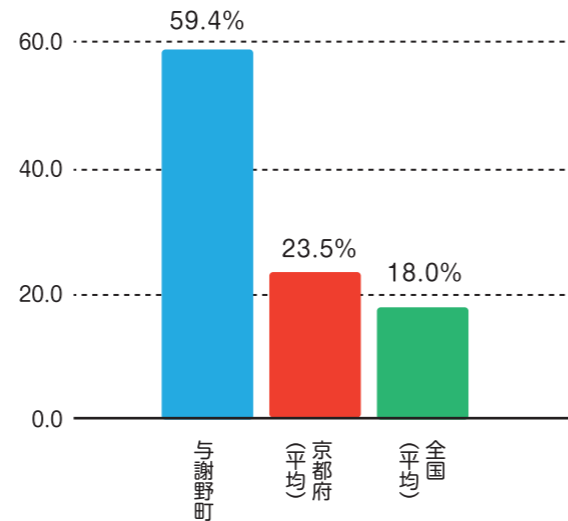
与謝野町では、古くから農業が盛んで、町の経済を担ってきました。

特に稲作に関しては、当時の「丹後王国」が奈良の平城京に米を献上していた記録も見つかっているほど歴史があります。

それでは、現在の与謝野町の農業は、どうなっているのでしょうか。

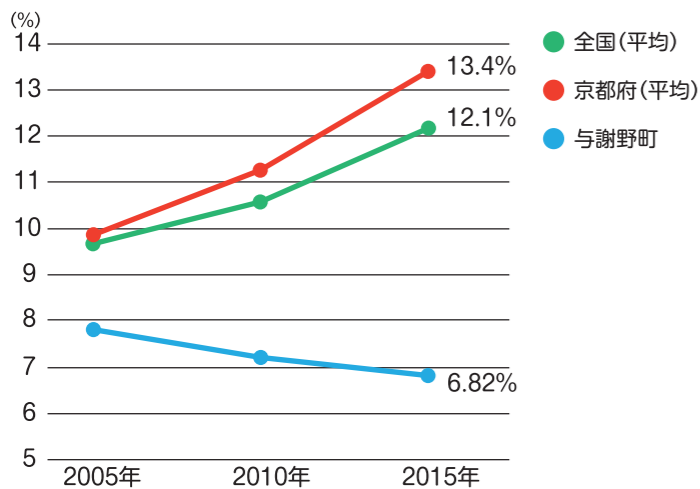
統計データからその特徴を見ていきましょう。

品目全体に占める米の産出額割合



（出典）農林水産省「平成28年市町村別農業産出額（推計）」
「平成28年生産農業所得統計」

耕作放棄地率の推移



（出典）RESAS(地域経済分析システム) 農林水産省「農林業センサス」

また、耕作放棄地率が低いということも特徴として挙げられます。

与謝野町の耕作放棄地率は6.82%と、とても低く、全国や京都府平均の約2分の1であり、農地を有効に活用できていることがわかります。

また、全国的に耕作放棄地率が上がっているにも関わらず、与謝野町は、耕作放棄地率が下がっているという点も特徴的です。

このように農業が活発なまちである与謝野町では、どのような取り組みがなされているのでしょうか。

次のページでご紹介します。

自然循環農業の推進

与謝野町では、おからを主原料として、米ぬか、魚のあらを副原料とした有機質肥料「京の豆っこ」を製造、販売しています。

この肥料を使用して作られたお米は、安心・安全・良食味を追求した「京の豆っこ米」というブランドで与謝野町の特産品になっています。

このように与謝野町では、副産物を肥料にし、大地に還元することで、環境に与える負荷を少なくした「自然循環農業」が進められています。



与謝野町産ホップの生産

近年の農業情勢(高齢化による担い手不足、米価の低迷)等から農業を守るため、水稻・施設園芸に次ぐ作物として、ビールの原材料であるホップの生産に挑戦しています。

国内産ホップは需要が高く、新たな農業振興作物として期待されており、生産量は、平成28年に177kg、平成29年に480kg、平成30年に507kgと順調に増えています。

また、与謝野町産ホップを原料とした「与謝野絶景ビール」を発売し、話題を呼びました。



スマート農業の先進地

農作業の効率化や技術の継承を目的に、ICT農業を進めています。

例えば、与謝野町の農地に導入されているAIブレーン「e-kakashi」は、取り付けられたセンサーと人工知能により、田畑の温度や日射量などから最適な生育環境を導くことができます。

このように、勘や経験に頼るのではなく、データに基づいた農業を行うことで、新規就農者でもベテランの技術をすぐに受け継げる仕組みを構築しています。

